

to heart

ひだまり通信

みなさんこんにちは。

今年も昨年のような暑い夏がやってくるのでしょうか？2月生まれの私は夏が大の苦手です、1年で一番生活しにくい季節に突入です。今年も父がニンニクを作ってくれたので、暑さ対策として梅雨の間にニンニク漬けを作って備蓄しました。みなさんは暑さ対策をどうしていますか。

さて、令和に年号が移り2か月があつという間に過ぎました。今年は、ゴールデンウィークが10日間あり、働く私たちにとってはありがたいご褒美をいただきました。みなさんにとって特別なことはありましたか。我が家では、娘が山口県に帰省してくれたので毎日穏やかな日々を過ごすことができ、本当に家族の和を感じています。休日には実家にも顔を出し、昔話に花を咲かせています。最近つくづく実感していることは、働く上で生活スタイルが安定していることが、いい仕事へと導いてくれると確信しています。心が悲鳴をあげないで安寧な日々を送ることは、笑顔となって体全体で表出しているのではないかと自負しています。

当院では今年4月から常勤医師3人の方が入職し、職員の皆さんのモチベーションも上がっています。同じく看護師、看護助手の新入職員も採用され、即戦力になる人材が入職して現場の雰囲気は少しずついい方向へ変わっているように思います。各部署は、ベテランの方がとてもいい味を出し、加えて新しい職員はシンプルさがほど良い調味料となり、いい職場環境が提供できていると思っています。

今年のスローガンは新たな事への挑戦ということにしています。7月後半からは、病棟で看護学生の実習受け入れが始まり、病棟スタッフ一人ひとりが学生時代の実習を思い出し、良い手本になっていただきたいと思います。看護師の登竜門とも言える看護学実習は本当に苦しい時間ですので、指導者をきちんと配置して、看護師としての姿勢を正して受け入れていこうと思っているので、職員の皆さんも実習生の皆さんに温かい目を向けてほしいと思います。

また、11月からは地域包括ケア病棟が開設となりますので、そろそろ職員の皆さんと共通理解していく時期に来ていると思いますので、不明なことがあればどんどん主任たちに聞いてほしいと思います。一般病棟スタッフの皆さんは病院の歴史的瞬間に遭遇できるので、とても貴重な体験になるという強い期待感ともに楽しんで当日を迎えたいものです。

今年は1月から手術室の体制を変更したいということで、恐れ多くも私も手術室のメンバーとなっています。7か月を経過しましたが、とても奥が深く日にちだけが過ぎていきます。当初は、手術前日は緊張のあまり不眠症になり、いざ手術室に入ると全く動けない自分と格闘したり自問自答したりしていましたが、7月に入り持ち前の負けん気な自分が顔を出して、やるしかないという気持ちに代わってきました。これは私が変わったのではなく、先生方、看護スタッフの計らいによるものと感謝しております。今は楽しさをとても満喫しています。

看護部の目標は、現時点では到達目標の半分にも達していませんが、残り5ヶ月でどうにか形にしたいと考えています。物事を続けることへの大切さ、新たな事への挑戦は自身の成長にとって大切なことだと思います。私自身も日々の行動が過去の延長にならないように日々の研鑽はもちろんですが、新たな事へのチャレンジ精神を忘れずにしていきたいと思います。

石の上にも三年という諺がありますが、まだまだ未熟で力不足のわたしにとっては、納得のいくまでやるしかない覚悟を決めているので、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

2019年8月

看護部長 伊藤 節美